

県政この一年



今年は、高速交通体系の整備や「福井しあわせ元気」国体・障スポの態勢づくりなど、福井県の将来の発展に向けた基盤整備が目に見える形で大きく進んだほか、「いちほまれ」をはじめとする福井のブランドや魅力がさらに強化された年でした。この一年の県政の動きを、「福井ふるさと元気宣言」の4つのビジョンに沿って紹介します。

元気な県政

国体の成功と「スポーツ福井」の実現

競技力向上が形に! 愛媛国体・大会で県勢躍進
福井国体での天皇杯獲得を目指し、有力選手の確保や、指導者の育成を行っています。9、10月に行われた愛媛国体で、福井県は天皇杯7位となり、目標の10位以内を達成。全国障害者スポーツ大会でも、昨年を上回る23個のメダルを獲得し、選手や監督、関係者の努力が実を結びました。



国体と障スポの融合

障がいの有無にかかわらず、すべての人がスポーツの素晴らしさや可能性を共有できる国体・障スポ2018福井大会を目指し、全国に先駆けて国体と障スポの融合を推進しています。開催1年前を記念したイベントでは、国体と障スポ競技の体験会や、車椅子バスケットボールの日本代表選手による講演会などを開催。また、融合を分かりやすく伝えるためのプロモーションビデオを12月に制作し、動画配信サイト「ユー・チューブ」で公開しました。

国体・障スポ

開催準備を万全に

福井運動公園内の体育館とテニスコートが4月に完成するなど、競技会場の整備を着実に進めました。競技会場につながるアクセス道も整備。11月には、体操競技と軟式野球の会場を結ぶ福井鯖江線が開通しました。国体・障スポの本番を見据え、関係市町や各競技団体、ボランティアなどの協力を得て、競技会のプレ大会を開催し、運営方法を確認するとともに、課題を共有しました。来場者の案内や会場の清掃などを行う運営ボランティアと、手話や要約筆記などを行う情報支援ボランティアの研修を開始しました。

幸福実現、誇りを生み出す「ふるさと政策」

幸福度日本一を発信

「幸福度日本一ふくい」を県内外にアピールするため、「しあわせになるラジオ」を首都圏や県内で放送したほか、福井の伝統行事や風習などを集めた「ふくい四季のしあわせ綴り」を作りました。

ふるさと納税を正しくPR

「ふるさと納税の健全な発展を目指す自治体連合」を5月に設立し、全国74自治体とともに、ふるさとを応援するという制度本来の趣旨を全国に発信しました。

観光・交流拠点が続々誕生

食や伝統産業などの地域資源を活用した観光・交流拠点を、市町と協力して整備。温浴施設うらら館(大野市)、旬菜食祭 花月楼(勝山市)、紙の文化博物館(越前市)、えい坊館(永平寺町)、フレンチレストランHAZE(越前町)、きのこの森(おおい町)など、多くの施設が誕生・リニューアルしました。

文化・芸術を身近に

県立美術館40周年を祝う

開館40周年を記念し、県立美術館が所蔵する選りすぐりの名品200点を集めた特別展や、「近代日本画の父」狩野芳崖とその弟子たちにスポーツを当てた企画展を開催。12月にはスタジオジブリ作品の設計図ともいえるレイアウト展が始まりました。



文化財に国のお墨付き

建造物「瀧谷寺伽藍」(坂井市)や手漉き和紙技術「越前鳥の子紙」(越前市)、史跡「興道寺摩訶庵」(美浜町)の3件の文化財が、国の指定を受けることになりました。

新ブランド米「いちほまれ」誕生

コシヒカリ発祥の地・福井県が開発した新ブランド米「いちほまれ」。県内外から寄せられた10万件を超える応募の中から、4月に名前を決定。「日本一おいしい誉れ高きお米になってほしい」という思いを込めました。今年、県内で約600トンのいちほまれを生産。9月には首都圏と県内で試験販売が始まり、おいしいお米の源となる太陽をモチーフにした金色のロゴマークが、百貨店やスーパーの店頭に並びました。いちほまれを口にした多くの人が、その特長である①キラキラ輝く白さ、②口に含んだ瞬間の、しっとり、ふつとした食感、③噛みしめることで広がる優しい甘さを体感。東京の高級百貨店では、粒の大きさを揃えた限定版いちほまれが全国のブランド米を上回る高値で販売されるなど、価格面でも全国トップクラスのお米としての評価を獲得しました。品質、価格ともに高い評価を得たいちほまれ。来年の本格生産・販売に向け順調なスタートを切りました。



元気な県土

美しい県土、楽しく便利なまちの形成

つながる高速道路

中部縦貫自動車道の永平寺IC～上志比IC間が7月に開通し、永平寺大野道路が全線開通しました。沿線地域では、観光客や立地企業が増えるなど、開通の効果が現れています。11月には、大野油坂道路の北陸新幹線敦賀開業までの全線開通の実現に向けた機運を高めるため、大野市和泉地区で整備促進大会を開催しました。若狭さとうみハイウェイ(舞鶴若狭自動車道)では、3月に敦賀南スマートインターチェンジが開通。嶺南地域の新たな玄関口が誕生し、観光誘客や産業振興につながりました。



永平寺大野道路が全線開通

整備が進む北陸新幹線

金沢・敦賀間の県内区間の工事が着々と進み、福井市内の高架橋のほか、九頭竜川や竹田川などの橋りょうが次々と姿を現しました。鉄道・運輸機構が地域のシンボルとなる県内新幹線駅の駅舎デザイン案を発表。平成30年春までに各駅のデザインが決定される予定です。3月に全ルートが決定した敦賀・大阪間については、1日も早い完成・開業に向け、12月に関西と連携して政府・与党に対し要望活動を行いました。

ダイヤモンド・プリンセスが初寄港

海外大型クルーズ船「ダイヤモンド・プリンセス」が9、10月に敦賀港に寄港。アメリカ人やオーストラリア人を中心とした乗客は、「敦賀まつり」のほか、三方五湖や永平寺などの観光に訪れ、県内のにぎわい創出につながりました。



ダイヤモンド・プリンセスをおもてなし

歴史を感じるまちづくり

福井城の築城当時からあったとされる井戸「福の井」を3月に整備しました。10月には、福井城本丸西側の「山里口御門」の建物部分が完成し、内覧会には200人以上の歴史ファンが参加しました。

原子力・エネルギーの確かな将来展望と地域振興

大飯3、4号機の再稼働に同意、「もんじゅ」の廃炉協定を締結

大飯3、4号機について、地元おおい町や県議会の意見、県原子力安全専門委員会の評価、国や事業者の対応などを考え合わせ、11月に再稼働に同意しました。「もんじゅ」については、県が求めてきた安全対策などに対する政府の回答を確認したのち、廃炉手続きを進めることに敦賀市とともに了解し、12月に廃炉協定を締結しました。

元気な産業

革新と創造で伸びゆく福井の企業

企業誘致が好調

新規設合わせて36件の企業を誘致しました。投資額にして713億円、新規雇用予定者数は920人の規模になります。特に、嶺南地域には大規模な自動車関連の企業や防災関係の企業が立地するなど、新たな分野の産業が生まれました。

越前古窯博物館がオープン

日本遺産に認定された日本六古窯のひとつ、越前焼。その越前焼の歴史・文化を発信する拠点「越前古窯博物館」が、10月、越前陶芸村内にオープンしました。越前焼研究の第一人者・水野九右衛門氏が収集した「水野コレクション」を展示しているほか、茶道や華道など伝統文化の活動場所として活用されています。岡倉天心を顕彰する茶室も整備し、11月には約660名が参加する大規模な茶会を行いました。



越前古窯博物館

「農」・「林」・「漁」業を意欲と誇りの総合産業へ

新ブランド「福地鶏」が誕生

県畜産試験場が平成26年度に開発を始めたブランド地鶏「福地鶏」が誕生しました。卵は6月に販売がスタート。肉は来年5月に販売開始予定です。



地魚の消費拡大をPR

越前がにや若狭ふぐ、ふくいサーモンなどが車体に描かれたラッピングカー「浜の母ちゃん号」が9月に完成。食のイベントで魚の加工品を販売・PRし、地魚の消費拡大を呼びかけています。

高速交通時代にブランド・観光オンリーワン戦略

白山開山1300年! 記念の年を祝う

泰澄大師による白山開山から1300年を記念したキャンペーンを実施。泰澄の業績や人物像を紹介する特別展を歴史博物館で開催したほか、越前山や大谷寺、平泉寺白山神社など、泰澄ゆかりの地を巡るバスツアーを行いました。

「幕末明治福井150年博」の準備を加速

来年の「幕末明治福井150年博」への機運を高めるため、3月にイベントを開催。福井の先人の功績を紹介するトークショーを行ったほか、当時の食事を再現して来場者に提供しました。10月には実行委員会を設立し、市町や観光商工団体などと基本理念や実施内容を決定しました。

元気な社会

豊かな環境、すぐれた風景を次の世代に

世界標準「水月湖年縞」をPR

化石や文化財の年代を特定するための「世界標準のものさし」として認められている「水月湖年縞」。その価値を世界に発信するため、9月に年縞研究の第一人者を招いて国際シンポジウムを開催しました。現在建設中の「水月湖年縞研究展示施設(仮称)」は、水月湖年縞を活用した教育・観光の拠点として、来年の開館を目指します。

福井から人材育成

教育総合研究所がオープン

旧春江工業高校校舎を活用し、4月に「教育総合研究所」をオープンしました。研究所には、中高生が高度な理科実験を体験できるサイエンスラボや、英語教材の開発などを行う先端教育研究センターのほか、昔の教材や福井ゆかりの教育者などを紹介する教育博物館を整備しました。



サイエンスラボでの理科実験

先進的な医療と福祉、健康長寿のふるさと貢献

県民の健康づくりを推進

日常生活で歩く機会を増やすため、新たな県民運動として「スニーカービズ」を展開し、スニーカーなどの歩きやすい靴での通勤・勤務を推奨しました。10月には「ちょい足し健康レシピ」を作成し、福井県民が不足しがちな野菜を簡単に摂取するための料理をPR。また、運動や正しい食習慣を実践して認知症を防ぐ「ふくい認知症予防メニュー」の普及を図りました。

人口減少に歯止めをかける徹底戦略

学生の県内就職をあと押し

学生の就職相談窓口となる「キャリアナビセンター」を、4月にアオサ7階のFスクエア(大学連携センター)内にオープンしました。また、夏休みを利用し、都市部の学生が県内企業で商品開発や新事業の企画などを体験する「経営参画インターンシップ」を行いました。

縁結び力をアップ

4月、県生活学習館に「ふくい縁結び交流室」がオープン。出会い・結婚を応援する「地域の縁結びさん」などが、情報交換や結婚相談の場として活用しています。8～11月には、地域の縁結びさんと結婚相談員を対象に「ふくい縁結び学校」を開講し、結婚相談に関する知識や技術を磨きました。